

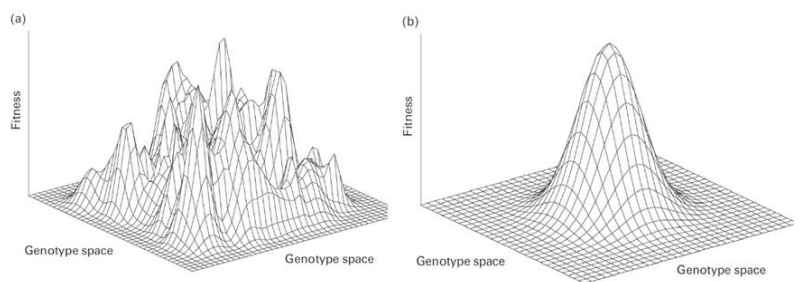
多様性から見た人間の行動，ヒトと人の本質， 霊長類学：人間行動進化学

教員名：三谷雅純

連絡先メールアドレス：mitani@atmark.hitohaku.jp

◎ 「多様性から見た人間の行動」って、何のこと？

科学的に人間の本質を探る時、生物学的に見る「ヒト」を対象にする時と、社会学的、文化的に見る「人」を対象にすることがあります。しかし、人間行動の進化史的由来を調べ多様性を比べる時には、両者が混在します。例えば「聞く一話す」で成立する聴覚言語の〈ことば〉を考えると、発声器官は他の霊長類と同じですが、〈ことば〉を使いこなすには「象徴性」がなければなりません。また具体的なヒトの適応度は社会のあり方で変わるもので、社会の中で「勉強ができる」とか「粘り強い」といったあるひとつの行動だけが優れていると考えるのは迷信です。そうした多様性を人間の本質ととらえて行動の意味を探ります。わたし自身は発達障がい者や高次脳機能障がい者の認知に感心を持って研究を進めています。



(a) のように生き物の適応度は環境条件によって変化します。(b) のような単一の基準で適応度が決まると考えるのは「神話」にしか過ぎません。Gavrillets, S. (2010) "High-dimensional fitness landscapes and speciation" *Evolution: the extended synthesis*: 45-79.

◎ 主な研究業績と一般書籍

- 1) 《ヒトの生物学と人の社会学》三谷雅純 (2011) 『ヒトは人のはじまり 霊長類学の窓』, 毎日新聞社, pp. 224.
- 2) 《ヒトの多様性のまとめ》三谷雅純 (2013) 生涯学習施設は言葉やコミュニケーションに障害を持つ人とどう向き合うべきか：総説. 人と自然, 24: 33-44.
- 3) 《障害の社会的保障》三谷雅純 (2018) 言語音の認識が難しい高次脳機能障がい者が理解しやすい災害放送とは？—肉声への非言語情報の付加に注目して—. 福祉のまちづくり研究, 20: 13-23.

◎ 学生に向けて一言

人類行動進化学は幅の広い学問です。生物学と単純に捉えるより、社会学や心理学、哲学も含んだ概念と捉える方が良いかもしれません。わたしの学問的背景は霊長類学、つまり「ヒトと、ヒトの進化に関係の深い非ヒト霊長類の科学」にあります。興味がある学生がいたら、いくらでもお話しをします。